

海の中道海浜公園官民連携による魅力向上推進方針 資料編

2019年 3月

国土交通省 九州地方整備局

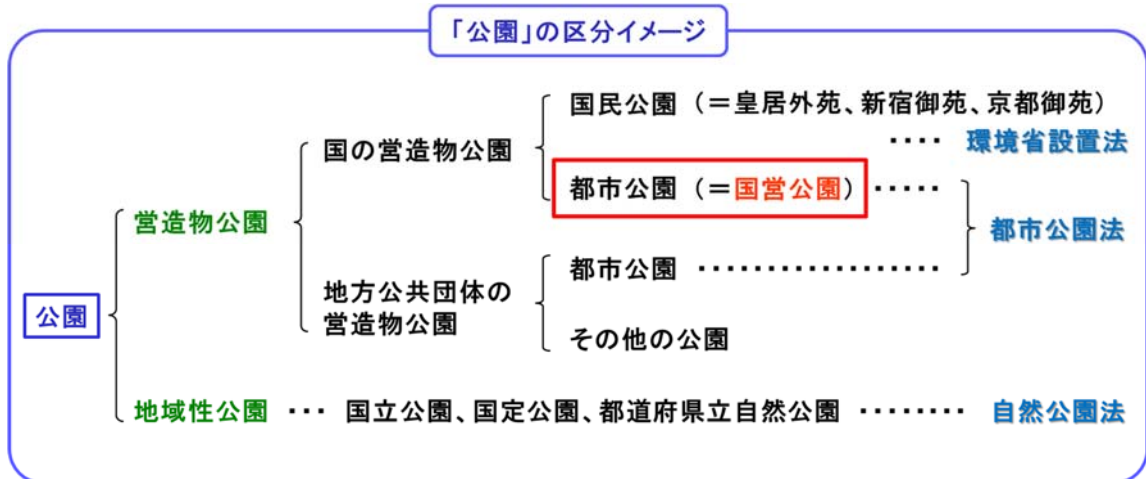
－ 目 次 －

1. 海の中道海浜公園の概要.....	1
1.1. 国営公園とは.....	1
1.2. 本公園の設計の基本方針.....	2
1.3. 本公園の全体計画.....	3
1.4. 本公園の主要な公園施設.....	3
1.5. 本公園の主要なイベント等.....	4
1.6. 有料区域・無料区域.....	4
2. 現状分析.....	5
2.1. 本公園全体の現状分析.....	5
2.1.1. 本公園の強み.....	5
2.1.2. 本公園の課題.....	8
2.2. 各地区ごとの現状分析.....	15
2.2.1. 地区別の現状分析の方法.....	15
2.2.2. B地区の現状分析.....	16
2.2.3. C地区の現状分析.....	18
2.2.4. D地区の現状分析.....	23
2.2.5. 現状分析まとめ.....	24
3. マーケットサウンディングの実施及び結果概要.....	25

1. 海の中道海浜公園の概要

1.1. 国営公園とは

- いわゆる「公園」には、大きく分けて都市公園に代表される営造物公園と、国立公園に代表される地域性公園があります。
- 国営公園は、国が整備・管理する都市公園です。



1.2. 本公園の設計の基本方針

(a) 社会条件に対して

- 本公園は、福岡市のレクリエーション一大拠点として位置付けると同時に、北部九州圏域の広域緑地系統の一環として位置づけます。すなわち、日帰り利用を主体としながらも、宿泊利用も考慮します。
- 隣接、近隣地域への本公園建設が与える影響を十分検討して、共存関係が成立する為の条件を配慮しながら計画策定を進めています。

(b) 自然条件に対して

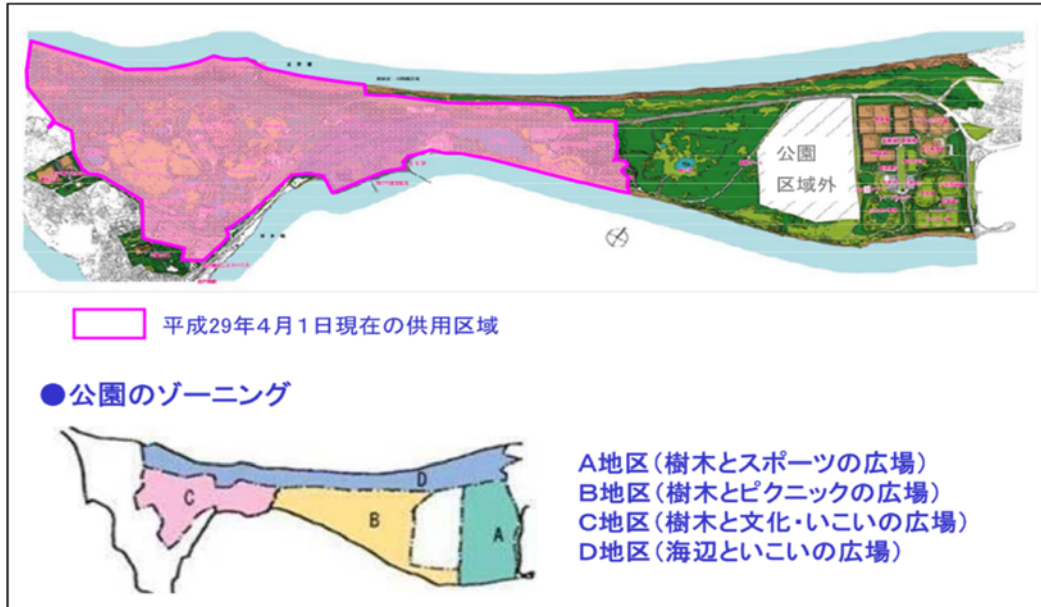
- 新たなランドスケープ造成にあたっては、既存の植生、地質、土壌条件等を十分考慮しています。全域が地表を除いて砂地であるため、土壌改良又は土壌置換を行なうことにより、植栽に適した土壌条件をつくっています。
- 臨海性の植生を改善補強し、二次林の形成を促進しつつ、緑地帯を拡大発展させています。
- 淡水と塩水の自然的バランスを破壊しないように池の造成を考慮しています。

(c) 計画条件に対して

- 540ha という面積のスケールメリットを最大限に生かしながら、自然公園的な性格をベースにオールシーズン利用可能な施設計画を行っています。
- 利用需要の多い夏季の海岸レクリエーション利用に対しては特別に考慮しています。
- 北から吹く潮風の防風処置を植栽や盛土により構じています。
- 高齢者及び障害者を含むすべての人が気軽に訪れ、それぞれの目的を果たせるよう、施設の利用のしやすさ、安全性には十分な配慮をしています。それに基づいて、すべての人が参加し、楽しめる企画・運営等のソフト面についても充実させています。

1.3. 本公園の全体計画

- 本公園は、昭和 51 年から事業に着手しており、昭和 56 年開園以降、計画面積 539.4ha のうち、297.7ha を（約 55%）を供用しています。
- 公園全体を A～D の 4 つの地区にゾーニングしてそれぞれの特徴を活かした整備、管理を行っています。



1.4. 本公園の主要な公園施設

- 本公園では、サンシャインプール、マリンワールド海の中道（水族館）、多種多様な遊具など、多様なレクリエーションに対応するための施設の整備を推進しています。



1.5. 本公園の主要なイベント等

- 本公園では、野外コンサート、クロスカントリー日本選手権、環境共生の森プログラム等多種多様なイベントが開催されています。

野外コンサート

夏の代表的なイベント

- ・公園内の野外劇場は福岡市内で最大規模。
- ・野外劇場：2万人収容可能
- ・すり鉢状の客席部：1.6ha
- ・平成29年度は7/22～23開催（2日間で32千人を動員）
- ・これまで数々の野外コンサートを実施。
- ・浜田省吾、南こうせつ、矢沢永吉、サザンオールスターズなどビッグネームのアーティストも多い。



〈野外コンサート〉

クロスカントリー日本選手権

日本陸連主催大会として最高のランク付けの選手権大会

- ・毎年2月下旬あるいは3月上旬に開催
- ・1987年に始まり、世界クロスカントリー選手権大会の日本代表選考会も兼ねて開催
- ・シニア種目には中長距離種目の日本人有力選手が招待される。



〈クロスカントリー日本選手権〉

フラワーピクニック2017

代表的な春の花のイベント

- ・H29.3.25～5.7（44日間）
- ・期間中入園者数 約26万1千人
- ・花リレー
（スイセン・サクラ・チューリップ・ネモフィラ・リビングストーンローゼー等）



〈博多線花壇〉(カナル)

〈150万本のネモフィラ〉(花の丘)



〈20万球のチューリップ・ムスカリ〉 (虹の花畑など)



環境共生の森（みらいの森）プログラム

H22.3.19に開園したエリアにおけるプログラム

- ・森づくりや里山づくりの体験イベントや自然観察等のプログラムを提供。
- ・運営はボランティアとの協働により実施。

・主なイベント

- 「みんなで森をつくろう」
- 「みんなで農体験」
- 「海と森のエコツアー」
- 「うみなか自然発見塾（サマー・スクール）」
- 「秋の虫みつけ」

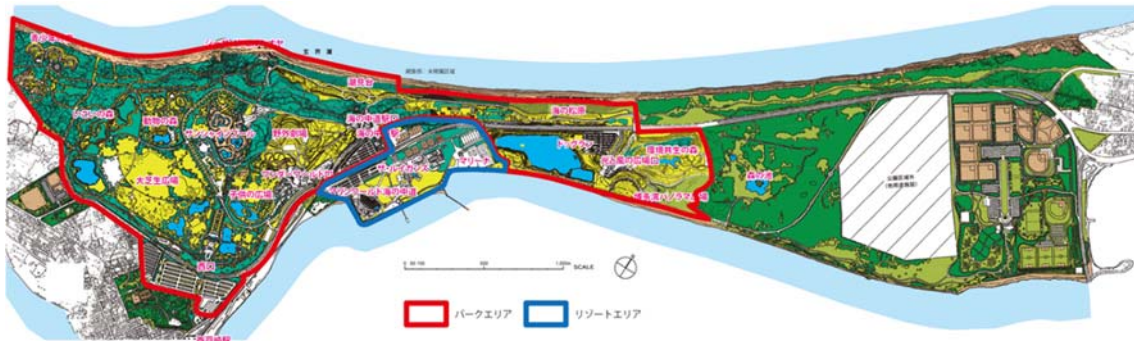
〈みんなで森をつくろう〉



〈みんなで農体験〉

1.6. 有料区域・無料区域

- 本公園は、入園料を徴収している「パークエリア」と、無料区域である「リゾートエリア」があります。リゾートエリアには、マリンワールド、ホテル等があり、施設単位で料金を徴収しています。



2. 現状分析

官民連携による魅力向上を推進するにあたり、本公園のポテンシャルとその状況を把握するため、現状の強み、課題等について整理、分析を行いました。

2.1. 本公園全体の現状分析

2.1.1. 本公園の強み

(1) 集客力が高く、幅広い層に利用されている

- 年間約 200 万人が訪れる北部九州の主要な観光拠点です。
- ファミリー層を中心に、10 代から 65 歳以上まで幅広い層が利用していることが特徴です。

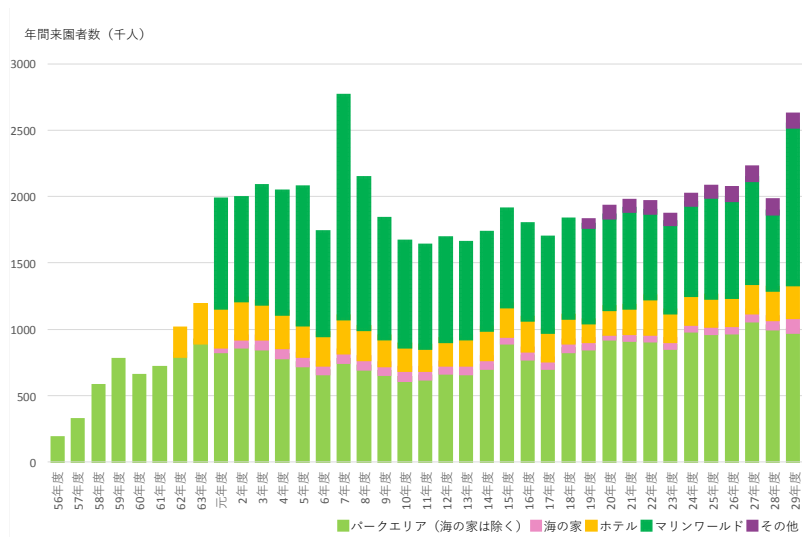


図 1 本公園の利用者数の推移

<参考> 北部九州の主要な観光施設の利用者数

ハウステンボス
H28.10-H29.9 入館者数 **288 万人**

出典:ハウステンボス HP

ヤフオクドーム
H27 入場者数 **317 万人**

出典:平成 27 年福岡市観光統計

福岡市動植物園
H27 入場者数 **94 万人**

出典:平成 27 年福岡市観光統計

九州国立博物館
H27 入館者数 **83 万人**

出典:平成 27 年福岡県入込客推計調査

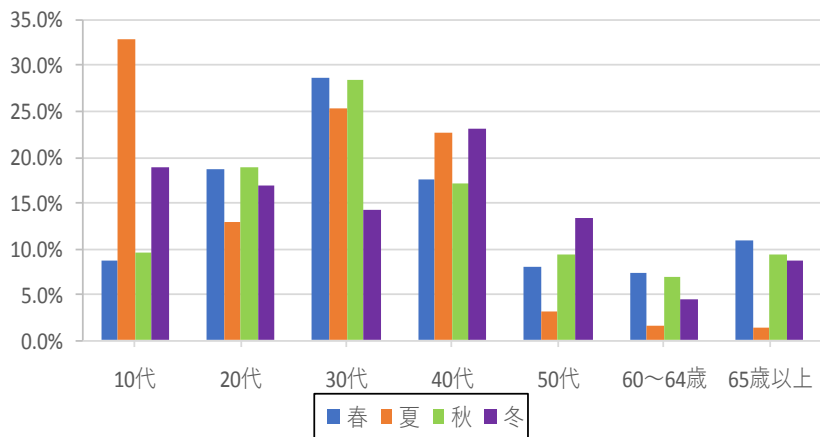


図 2 年代別の来園者割合

<出典>H28 海の中道海浜公園利用実態調査

(2) 広域的な集客力

○ 福岡市外からの利用が 6 割を占める広域的な集客力を有する公園です。

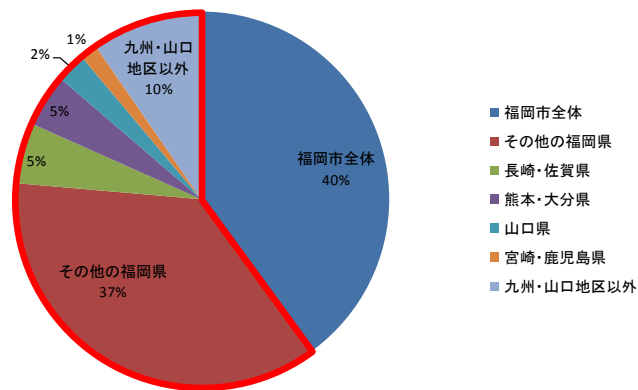


図 3 居住地別来園者割合 (年間)

<出典>H28 海の中道海浜公園利用実態調査

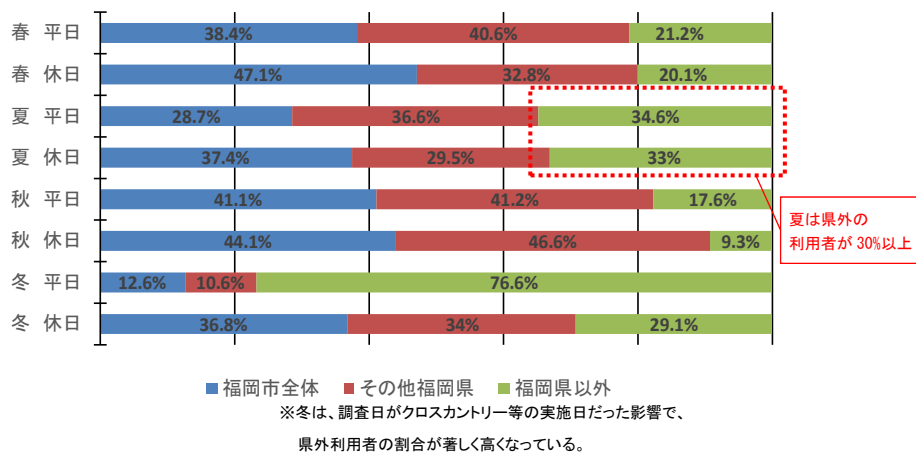


図 4 居住地別来園者割合 (季節別)

<出典>H28 海の中道海浜公園利用実態調査

(3) 広大な空間を活かした多様な施設

- 利用者へのアンケート調査の結果、公園内で利用率が特に高い施設は、バラ園、動物の森、大芝生広場、サンシャインプール（夏期のみ）であり、これらは当公園の主たる魅力となっている施設と考えています。

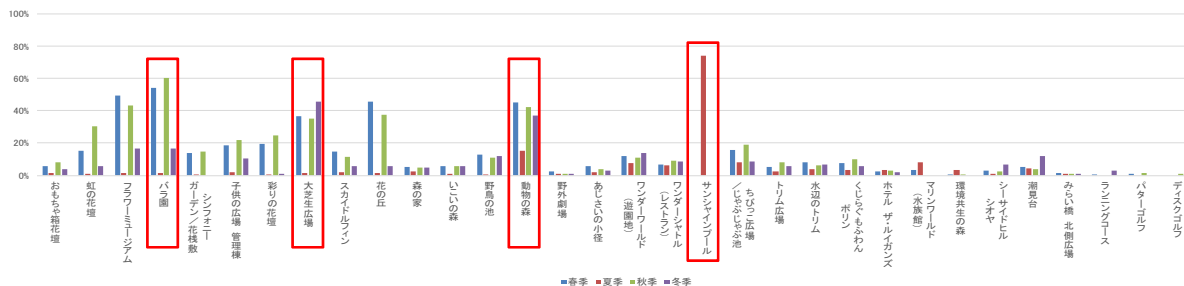


図 5 利用者割合(平日)

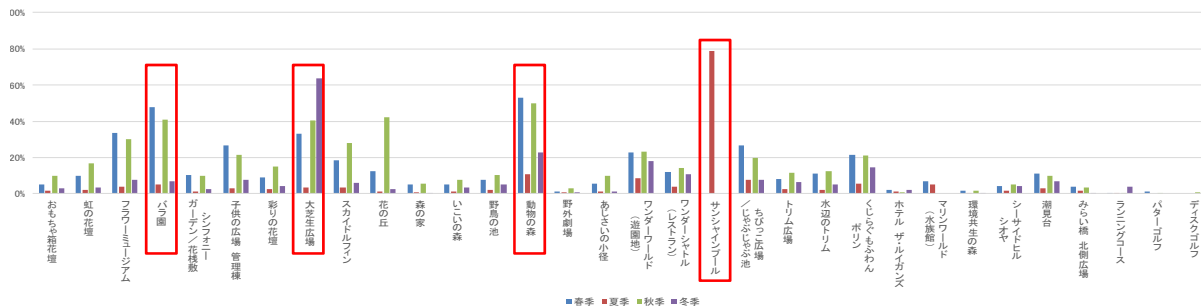


図 6 利用者割合(休日)

＜出典＞H28 海の中道海浜公園利用実態調査

2.1.2. 本公園の課題

(1) 家族連れ以外の潜在的な利用者層への訴求

- ファミリー層の利用割合が著しく高いことは公園の強みでもあります。一方で家族連れ以外の利用者にとって本公園は充分魅力を発揮できていないこととなります。
- 家族連れ以外の利用者層にどう訴求していくかということも課題と考えています。

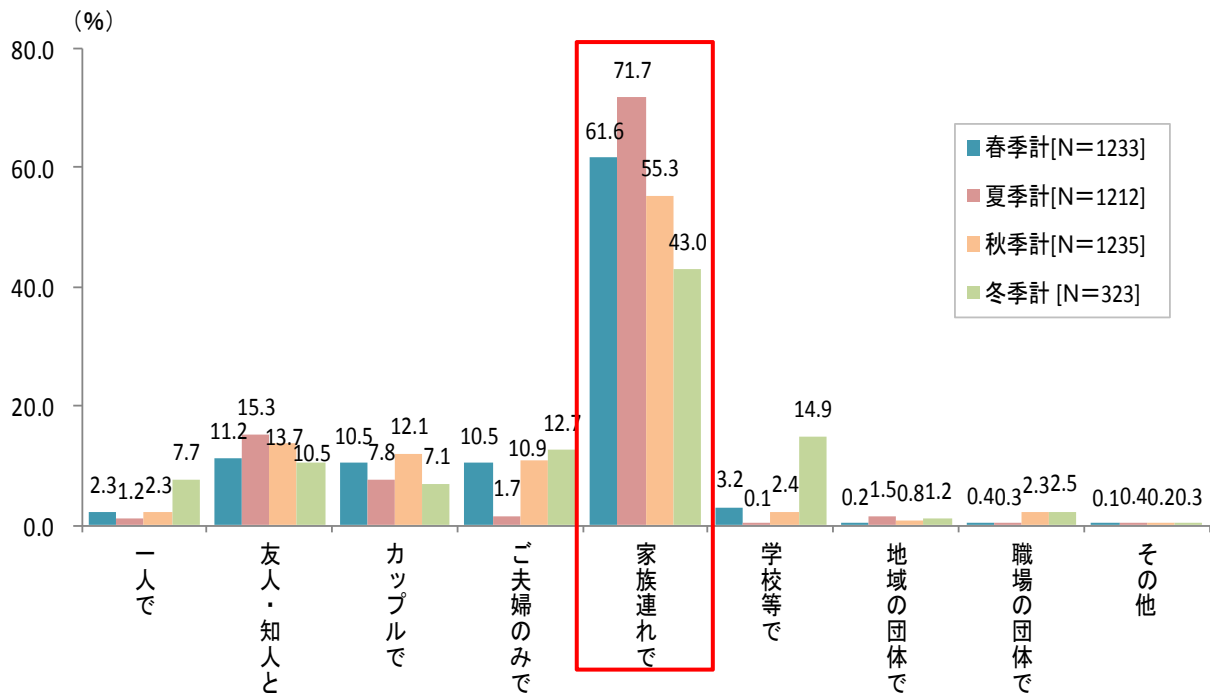


図 7 季節別でみた同伴者の状況

<出典>H28 海の中道海浜公園利用実態調査

(2) 海浜公園としてのポテンシャルの発揮が不十分

- 利用者からは、キャンプや花火といったアウトドア・夜間の利用や海浜レクリエーションに対する要望が多く寄せられていますが、安全管理や自然環境の保全、周辺地域の同種事業者への配慮等から、これまで本公園では充分対応できていません。
- 一方、海浜公園としてのポテンシャルを十分に発揮するためには、これらの利用ニーズに対しても課題を一つずつクリアしながら対応していくことが必要と考えています。

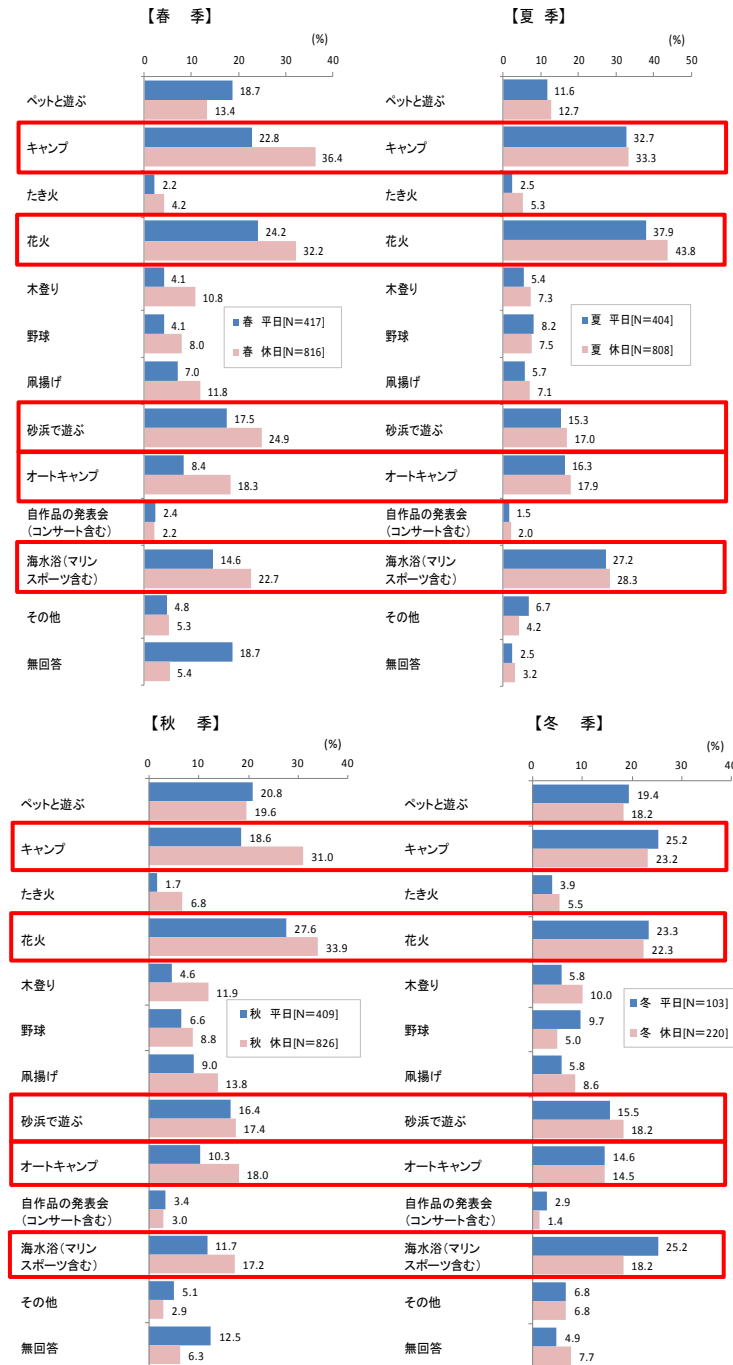


図 8 海の中道海浜公園でしてみたいこと

〈出典〉H28 海の中道海浜公園利用実態調査

(3) 繁忙期への利用の集中

- 公園の駐車場は、マリンワールド駐車場（390台）、海の中道駅口・ワンダーワールド口駐車場（821台）、西口駐車場（1,613台）、光と風の広場駐車場（596台）、デイキャンプ場駐車場（75台）であり、合計 3,495 台の駐車場が整備されています。



図 9 各駐車場容量

- 特に GW や夏期を中心に駐車場が混雑し、渋滞が発生しており、繁忙期への利用の集中、駐車場対策も課題となっています。



図 10 平成 29 年 GW 中の渋滞発生状況

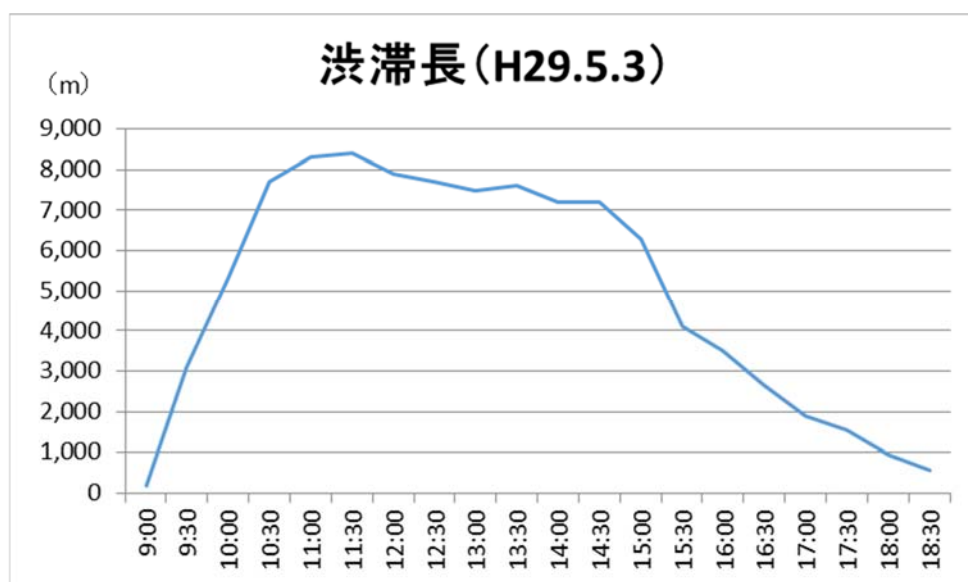


図 11 平成 29 年 5 月 3 日の渋滞長

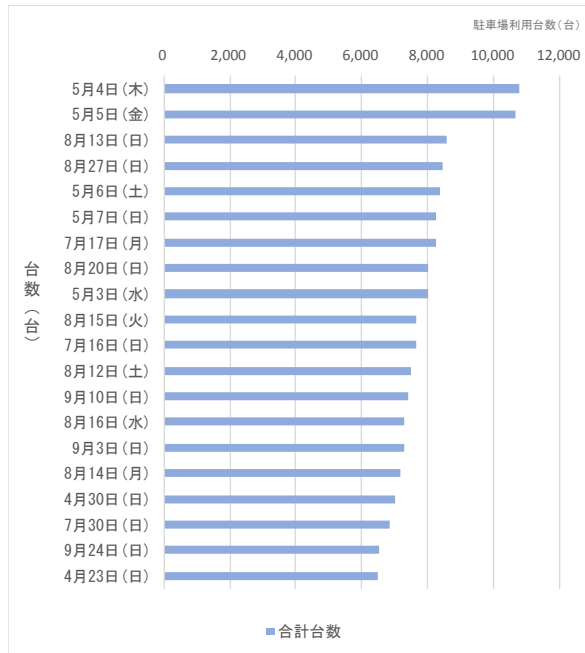


図 12 駐車場利用台数 上位 20 日 (H29 年度)

(4) 利用の偏り

- 本公園は、昭和 56 年の開園当初から供用している C 地区のエリアに施設が集中し、公園利用者の概ね 9 割強が C 地区の入口から入園しています。
- B 地区は環境との共生をテーマとした地区であることから、多くの利用者を想定した施設を整備していないことも要因ですが、ある程度公園内での利用の分散に配慮することも必要と考えています。(D 地区は入園ゲートなし)

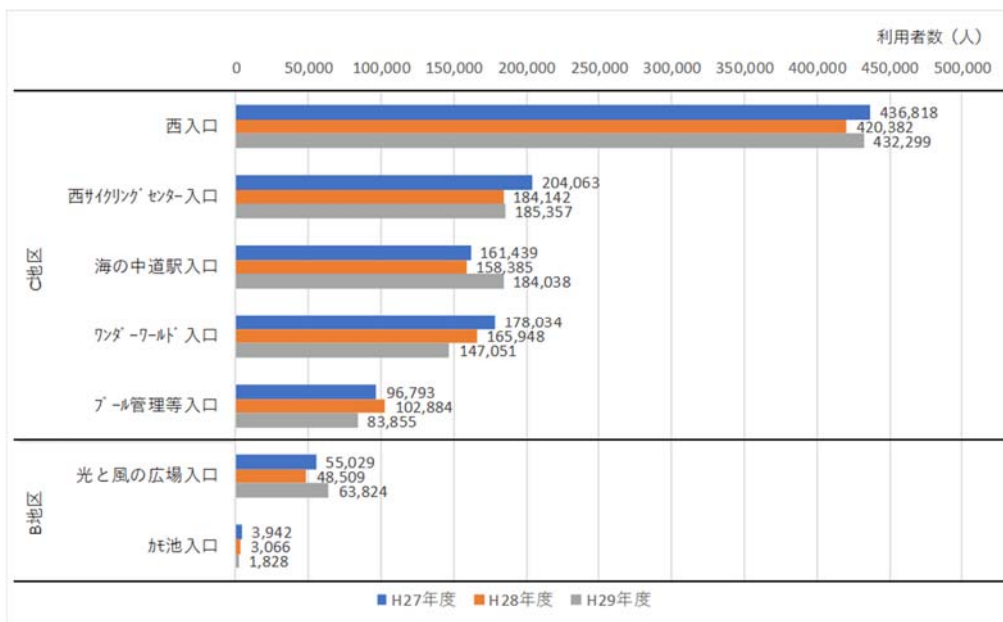


図 13 ゲート別利用者数 <出典>海の中道海浜公園利用実態調査

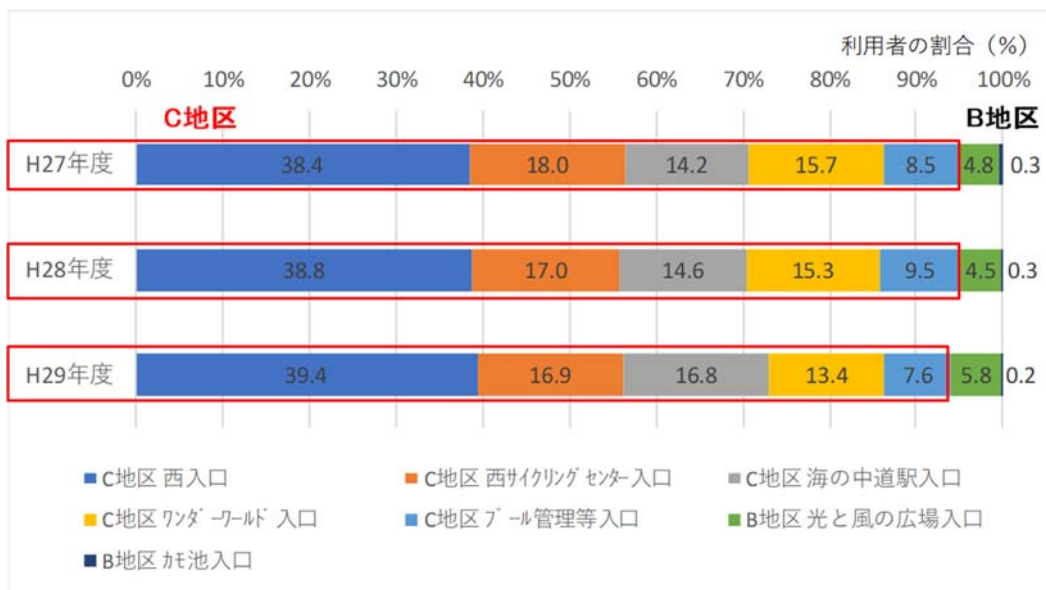


図 14 ゲート別利用者数の割合

〈出典〉海の中道海浜公園利用実態調査

- 季節や天候による利用への影響が大きく、冬場や雨天時の利用を促進することも必要と考えています。

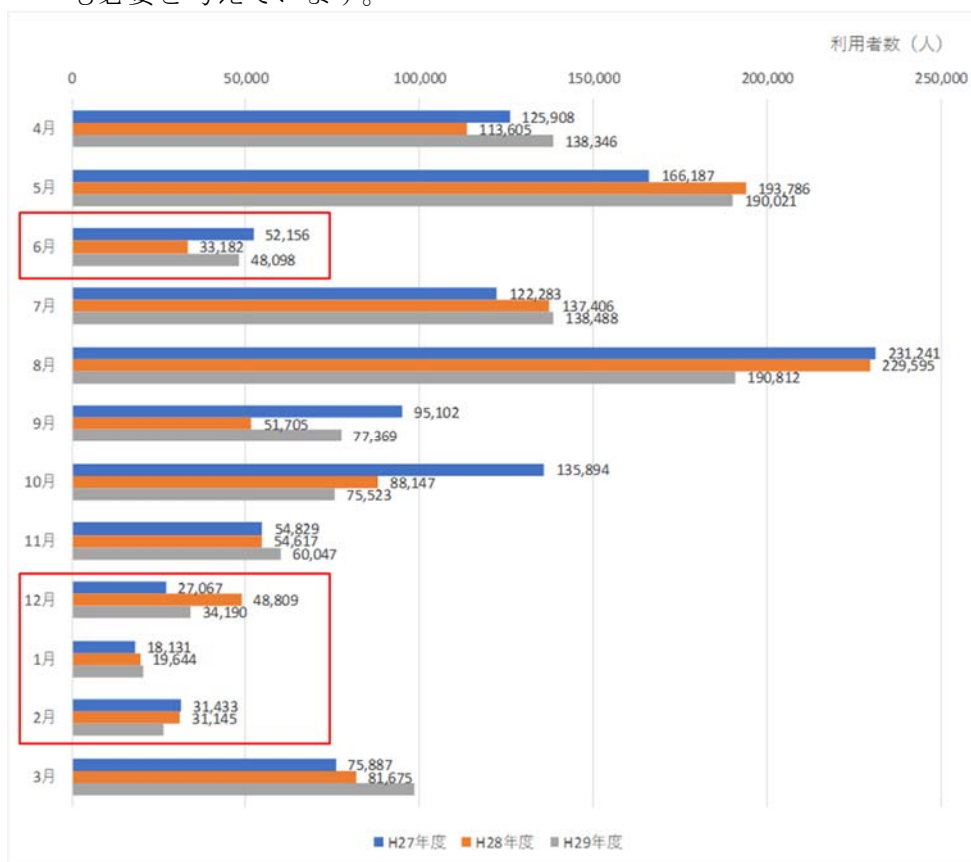


図 15 月別利用者数

〈出典〉海の中道海浜公園利用実態調査

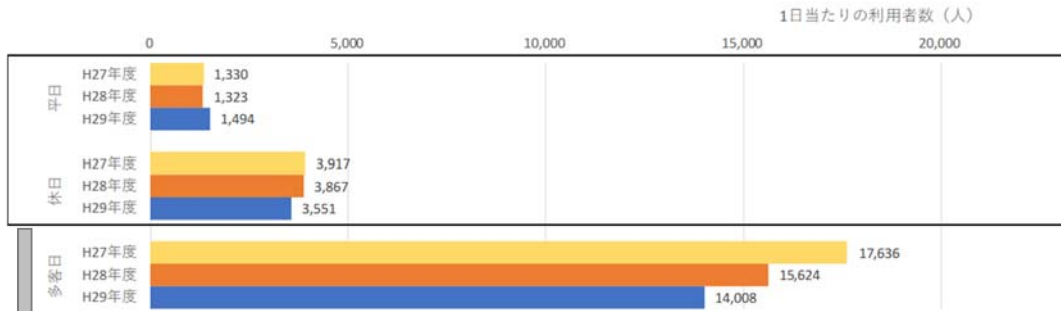
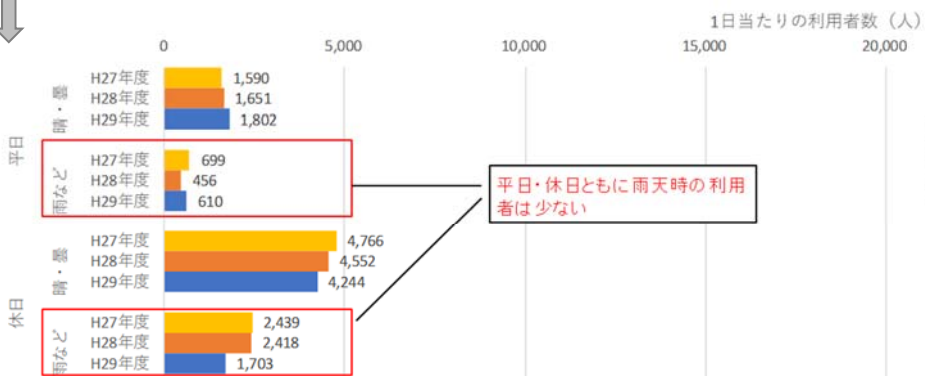


図 16 平日・休日・多客日別の利用者数（1日あたり）



【補足事項】
 ※多客日
 1万人以上の利用者があった日を多客日とした。
 ※天候区分
 天候記録で“雨”“曇のち雨”“曇時々雨”など、雨の記載がある日を「雨など」と設定した。ただし、“晴れ一時雨”などの『一時雨』は、利用者が多い日もあるため、突発的・短時間的な雨の可能性が高く、『一時雨』は「晴れくもり」に分類した。

図 17 平日/休日の天候別利用者数（1日あたり）

〈出典〉海の中道海浜公園利用実態調査

2.2. 各地区ごとの現状分析

2.2.1. 地区別の現状分析の方法

今後、官民連携による魅力向上を推進するにあたり、公園全体及び園内のエリア区分現状分析を行いました。検討手順は、下記のとおりです。

1. 公園全体の現状分析

※前ページまでに示したとおり、各データより、公園全体の現状分析を実施

2. エリア区分

本公園は、公園全体の基本設計の中で、A から D までの 4 地区に大別されているが、エリアの特徴を分析するには広大過ぎるため、更に詳細な 17 の小エリアに区分（※未開園であり、福岡市が管理している A エリアを除く）



図 18 本公園のエリア区分

3. エリア別の現状分析

1で示した17の小エリア別に、主な既存施設、実施イベント・プログラムを整理の上、当該エリアの強みや課題を整理

表 1 エリア別の現状分析の項目

強み	エリアの資源や魅力など、官民連携により魅力向上を推進する上での強みを整理
課題	官民連携により魅力向上を推進する上で、留意すべきエリアの課題を整理

4. 現状分析まとめ

1～3で実施した本公園及びエリア別の現状分析結果をとりまとめ

2.2.2. B地区の現状分析

- 計画面積：110.0ha（うち供用面積：46.0ha）
- 地区のテーマ：樹林とピクニックの広場
- 基本理念：豊かな自然との触れあいを通して心身のリフレッシュを図ることにより、国民の健康と活力を育む場とする
- 整備状況：①カモ池周辺、②環境共生の森、③デイキャンプ場・パノラマ広場など自然を主体とした整備を行っている。（④森の池は整備中）



図 19 B地区

(1) B 地区の強み

- 民家が離れており、騒音等の苦情の心配が少ない（全体）
- 管理上、24時間開園が比較的容易（全体）
- 博多湾を臨む開放的な空間を活用したレクリエーションが可能（①、③）
- カモ池の周回利用が可能（①）
- 環境学習フィールドとしての整備がある程度整っている（②）



OUTDOOR PARK in UMINAKA

(2) B 地区の課題

- 公共交通機関でのアクセスが不便（JR 海ノ中道駅から遠い）
- 他地区に比べて利用者が少ない（光と風の広場ゲート入園者数：年間約5～6万人）
- 単発的なイベントはあるが、定常的にスポーツが楽しめる環境が整っていない
- デイキャンプ場はあるが、宿泊利用ができない
- 保安林の指定による規制がある（④）

2.2.3. C地区の現状分析

- 計画面積：195.5ha（うち供用面積：190.7ha）
- 地区のテーマ：樹林と文化・いこいの広場
- 基本理念：施設型のアクティブな活動を楽しむことができ、松林の林間と大芝生広場でのびのびと自然を楽しむことができる場とする



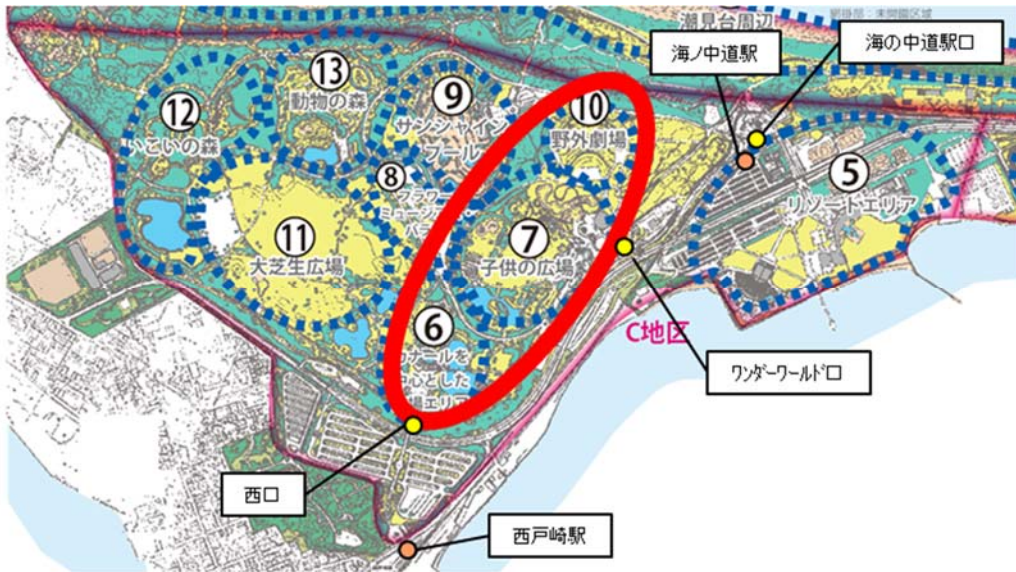
図 20 C地区

(1) C地区（⑥、⑦、⑩）の強み

- 入園ゲート・公共交通機関の駅に近い（⑥：西口、⑦ワンダーワールド口、⑩海の中道駅口）
- アスレチックや大型遊具、有料遊戯施設など子ども向けのコンテンツが多く集積（⑦）



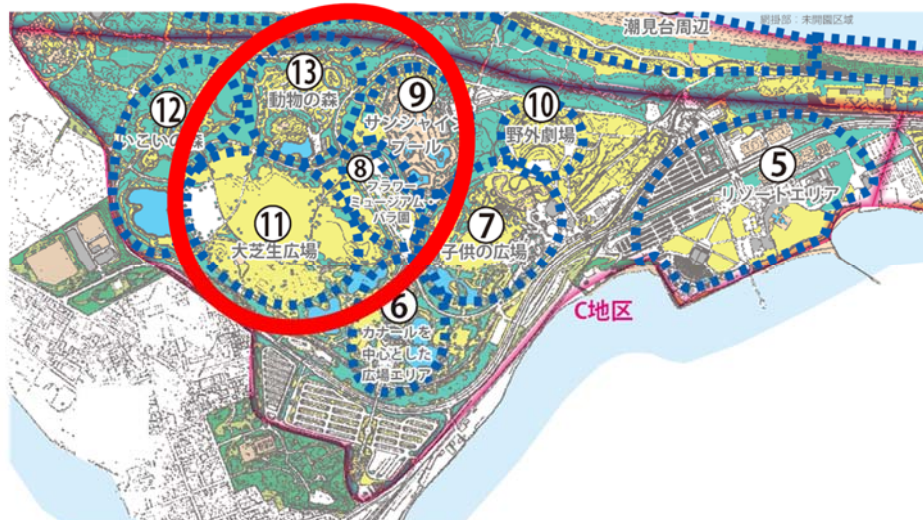
- 野外フェスティバル等の賑わいイベントの開催 (⑩)



(2) 課題

- 本公園内で最も多くの方が利用するメインエントランスの目玉、景の創出が必要 (⑥)
- 時代の変化等に伴う遊戯施設の魅力の低下 (⑦)
- 野外フェスなどの時以外活用されていない (⑩)

(3) C地区(⑧、⑨、⑪、⑬)の強み



- 本公園内で利用率の高い施設が集中しているエリアであり、公園の魅力の主たる部分を担っている



図 22 ⑧バラ園、フラワーミュージアム



図 21 ⑨サンシャインプール



図 24 ⑪大芝生広場

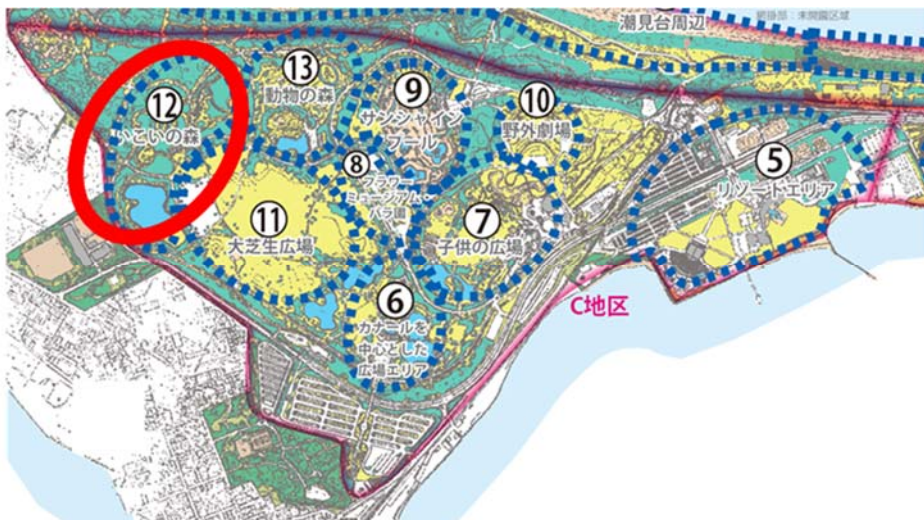


図 23 ⑬動物の森

(4) 課題

- 入園ゲートから距離があるため、アクセスが不便(⑨、⑬)

(5) C地区(12)の強み



- 園内で採れた自然の材料を使った木工作体験 (森の家)



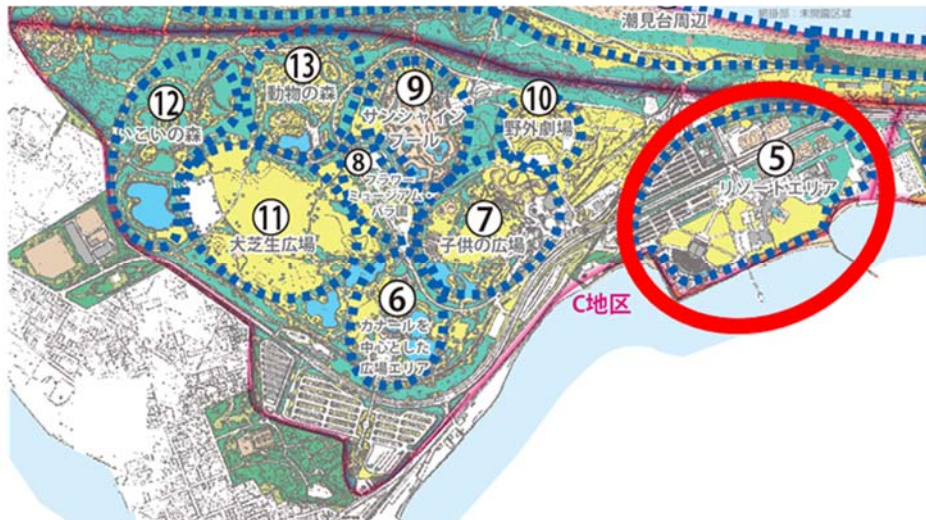
- いこいの森や野鳥の池など森林資源の活用ができる



(6) 課題

- 入園ゲートから距離があるため、アクセスが不便
- 利用者が少ない

(7) C地区(5)の強み



- 博多湾を臨む雄大な景観



- マリンワールド海の中道やザ・レイガンズといった多様な集客施設が集中



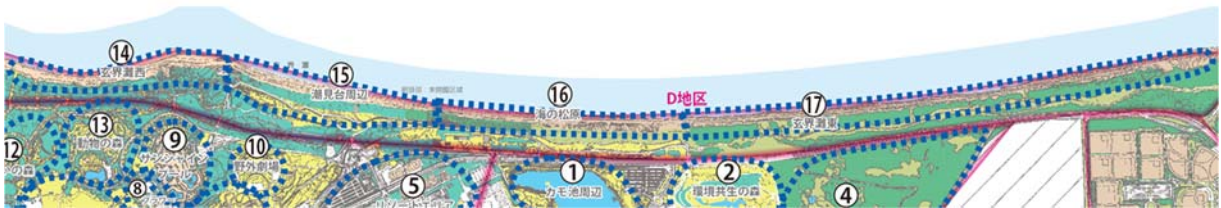
- 入園料を徴収していない無料区域（施設は有料）

(8) 課題

- 海の中道渡船場があるが、アクセス便が少ない（博多湾の対岸からの船便）

2.2.4. D地区の現状分析

- 計画面積：156.9ha（うち供用面積：58.2ha）
- 地区のテーマ：海辺といこいの広場
- 基本理念：強風や飛砂を防止するためクロマツ林や海浜植生を保全しつつ、魅力的な景観資源や海浜部特有の自然環境を活かした利用を楽しむ場とする
- 整備状況：現在、⑭、⑮エリアを供用している（⑯、⑰は未供用）。⑭と⑮の境界に休憩施設として「シーサイドヒルシオヤ」が、⑮に玄界灘の景色を見ることができる「潮見台」がある。



(1) D地区（⑭、⑮）の強み

- 玄界灘を臨む白砂青松の景観、豊かな自然環境を有している。



(2) 課題

- 現在、海浜植生の保全、復元のため、砂浜には立ち入りできないようになっているが、当地区の有効活用（海浜景観、海洋ジャー等）のための利用のあり方を整理していくことが必要
- 直接D地区に車でアクセスできるルートが設けていないため、アクセスが悪い

2.2.5. 現状分析まとめ

公園 全体	強み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間約 200 万人が訪れるなど、集客力が高く、広域圏を含め、幅広い層に利用されている ○ 広大な空間を活かして、魅力のある多様な施設（バラ園、動物の森、大芝生広場、サンシャインプール等）が存在する。 	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族連れ以外の利用者にとって魅力的な公園となっていない。 ○ 海浜公園としてのポテンシャル（海浜景観、海洋ビジャー等）を十分に発揮できているとはいえない。 ○ GWや夏休みなど繁忙期の利用の集中、C 地区への利用の偏りが顕著である。 	
B 地区	強み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博多湾を臨む開放的な空間で、カモ池、環境共生の森等を活用したアウトドア、水上スポーツ等のレクリエーションが可能である。 ○ 騒音等の苦情の心配が少なく、24 時間開園も比較的容易である。 	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共交通でのアクセスが不便であり、他地区に比べて利用者が少ない ○ 単発的なイベントはあるが、定常的にスポーツが楽しめる環境がない ○ デイキャンプ場はあるが、宿泊利用ができない 	
C 地区	子供の広場・カナル周辺	強み	○ 入園ゲートや公共交通機関の駅からのアクセスが良く 、 集客力が高い 。遊戯施設など子ども向けの コンテンツが多く集積 している。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ メインエントランスとして本公園の目玉、景の創出が必要 ○ 時代の変化等に伴う遊戯施設の魅力低下への対応が必要
	いこいの森周辺	強み	○ いこいの森や野鳥の池など森林資源の活用 ができる
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入園ゲートから距離があるため、アクセスが不便 ○ 主要施設から離れた場所にあり、利用者が少ない
D 地区	強み	○ 玄界灘を臨む白砂青松の景観 、豊かな自然環境を有する	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海浜植生の保全等に配慮しつつ、海浜景観、海洋ビジャー等、有効活用のあり方の整理が必要 ○ 入園ゲートから遠い上、直接車でアクセスできるルートや駐車場がない。 	

3. マーケットサウンディングの実施及び結果概要

1 で示した現状分析結果を踏まえつつ、民間事業者の視点から見た本公園のポテンシャルを活かした事業の可能性を確認するため、サウンディング調査を実施しました。

(1) 対象範囲

提案は、本公園全体（一部施設を除く）を対象としました。

(2) 実施期間

○参加事業者説明会 …… 2018 年 5 月 30 日（水）

○提案書の提出期間 …… 2018 年 5 月 16 日（水）～6 月 29 日（金）

(3) サウンディングの参加状況

○参加事業者説明会の参加者 …… 17 社・グループ

○個別対話の参加者 …… 9 社・グループ



<事業者説明会>



<現地見学会>



<個別対話>

(4) サウンディング結果の概要

①対象エリア

- ・ B 地区への提案が最も多く、その他、C 地区への提案がありました（※地区のゾーニングは図 25 参照）。

②事業内容

【事業提案】

- ・ B 地区では、オートキャンプ、グランピング、ログハウス、水上コテージ、テーマ型ホテル、会員制リゾートホテル等の宿泊施設に関する提案があり、このほか、運動を含めたレクリエーション施設、マリンスポーツ施設（カモ池での栈橋設置）に関する提案がありました。魅力向上のための仕掛けについては、海やカモ池を活かしたカヤック、スタンドアップパドルボード、水上バイク等のマリンスポーツ、自然資源の活用、健康増進をテーマとしたアクティビティ、環境学習プログラム、夜間における光を活用したイベント等、様々な提案がありました。
- ・ C 地区では、大型テーマパーク、ロードサイド店舗、マリンスポーツ施設（博多

湾での栈橋設置)、遊戯施設・プールなど既存施設の改修に関する提案がありました。魅力向上のための仕掛けについては、公園アプリの導入、ステージ等でのコンサート、パフォーマンス等の提案がありました。

【想定される事業効果】

- ・ 想定される事業効果については、利用者の少ない地区での利用者増大による園内利用の平準化、閑散期における公園利用者の増加、ファミリー層以外の利用者の増加等の提案がありました。

【周辺地域との連携、地域への貢献】

- ・ 周辺地域との連携、地域への貢献については、地元雇用促進、食材等の地元からの調達、地元小学校・中学校への自然体験プログラムの提供等の提案がありました。

③事業実施条件

- ・ 事業方式、事業期間については、P-PFI 制度や PFI 事業など、事業規模に応じて様々な提案がありました。また、事業期間についても、提案頂いた事業規模に応じて、10 年、20 年の他に、50 年といった長期に渡る設定もありました。
- ・ 営業時間については、提案頂いた事業特性に応じて、24 時間や夜間の営業を前提とした提案がありました。

④取り組みにあたっての課題

- ・ 提案された事業内容にあわせた、営業時間の変更、対象エリアの入園料の徴収方法等、運営面についての課題が挙がりました。
- ・ 投資回収リスクの軽減の観点から、土地使用料を軽減してほしいという意見がありました。
- ・ B 地区は駅や渡船場からのアクセスが不便であるため、交通アクセスの改善が課題として挙がりました。

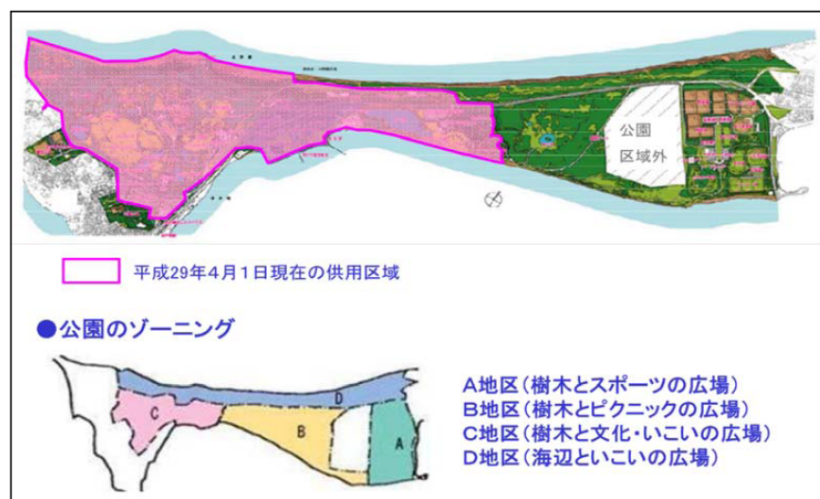


図 25 参考：本公園のゾーニング（A～D 地区）